

# 路上生活者を保護し、自立と就労を支援 貧困の深刻化のなか、高まる活動の意義

## ◇ 元路上生活者たちが働く食堂

札幌市営地下鉄北24条駅からほど近い雑居ビルのエレベーターを五階まであがると、食堂「あそびば」がある。壁に貼られたメニューは、定食や丼物など種類豊富で値段も庶民的だ。朝七時から営業し、夕方以降はビールも飲める。近所の住民も気軽に足を運んでくる。

この食堂で働く人の大半が元ホームレスだ。調理の腕がありながら不景気で解雇され路上生活へ

至った人などが、ここでは生き生きと働いている。ホールスタッフも同様だが、こちらは若者が多い。「NPO法人自立支援事業所ベトサダ」が社会復帰を支援する元路上生活者たちだ。

北海道にホームレスはどれくらいいるのだろうか。二〇一〇年一月の厳冬期に札幌でおこなわれた調査では七十二人という統計があるが、目視による調査のためカウントされないホームレスも多く、ネットカフェや郊外の公園など全道で一五〇〇二〇〇名のホームレスがいると考えられている。

ベトサダが支援するのは、五五歳未満の病気ではないホームレスで、生活保護を受けずに社会復帰を目指す。夜回りや移動相談車でホームレスの人たちに声をかけて脱路上生活を促している。仮宿舍や生活用品のリサイクルショップなど自立支援のための施設を運営し、資格取得や職業スキルの獲得を応援して自立へとつなげる活動をしている。

## ◇ 孤軍奮闘の中で問題の本質を実感、 支援団体設立へ

代表理事の眞鍋千賀子さんは、一九九七年に東京から札幌に転居してきて間もなく、路上生活支援の活動を始めることとなった。きっかけは偶然



自立のための拠点「ベトサダ荘」

だった。札幌駅近くのJR高架下の公園に暮らすホームレスの「おじさん」たちに出会い、その困窮した姿に心を揺さぶられて声をかけた。何とかしなくてはという気持ち

ちになり、カトリック信者だった眞鍋さんは、転居してきたばかりの土地の教会を訪ねてホームレス支援の活動がないか探したがみつからず、たった一人で動き始めた。自宅で作ったカレーや豚汁の大鍋を地下鉄で届けた。

しかし、食べ物、物資を与えるだけでは彼らのために解決にならないということに気づいた。現在の日本社会の貧困と格差の現実の中で、さまざまな事情で家を失い、このような生活を余儀なくされているホームレスが本当は何を望んでいるのかを考えた。「おじさん」たちの話を聞きだそうとしたが、彼らなりの矜持があるため世話になりたくないとの思いからなかなか本音がでてこない。それでも対話が続ける眞鍋さんは、やがて路上生活者の間で話題となった。「おじさんたちのネットワーク」は独特の情報網を持ち、眞鍋さんの活

## 北海道の元気! NPO訪問

26 NPO法人 自立支援事業所ベトサダ

文・加藤知美

動はこのネットワークとつながっていった。路上生活の人に、一時しのぎの金品を与えるのではなく、自立した生活の立て直しを支援する活動が始まり、手書きのビラ「脱路上ニュース」を配り、「支援します。路上生活から脱しましょう」と呼びかけ続けた。

たった一人で活動する眞鍋さんは、ホームレスの自立支援を事業としておこなう合同会社「なんもさサポート」代表の中塚忠康さんを紹介され、ボランティアメンバーとして一緒に活動した。そして、二〇〇九年になんもさサポートの非営利部門を独立させて「NPO法人自立支援事業所ベトサダ」が発足。ベトサダというのは新約聖書に書かれている泉の名前に由来する。そこから湧く水を浴びると心と身体が癒やされるという伝説に、多くの人々が集まってくるのだが、泉のそばにいないながらも誰かの助けを借りなければ水を浴びにいけない、体が不自由な人もいる。つまり、私たちのすぐ近くに、助けを必要としている人がいることをあらわしている。

### ◇ 眞の自立に向けて「寄り添う支援」を心がける

路上生活を脱して自立するための第一歩は、シャワーを浴びて手足を伸ばしてぐっすり寝ること。路上生活は過酷で、長く続くと低栄養、睡眠不足、過労となり、健康を害してしまう。まずは体を休めることが必要だ。そうした人たちの宿泊施設として「ベトサダ荘」を運営している。部屋がカーテンで仕切られており、個人のスペースが確保さ



代表の眞鍋さんと、なんもさサポートの中塚さん  
ホームレス支援北海道ネットワークをたちあげた

ト生活ができるようになるまで、衣食住を支援する。例えば、建築現場での仕事が決まれば作業着や安全靴、腰袋などを支給するし、仕事に行くのに弁当が必要なら毎朝用意する。給料がもらえるようになったら、維持運営費として収入に応じて月二万円までの金額をもらう。また、施設の清掃やビラ配りなどのボランティアもしてもらう。自分が潤ったら、他人の渇きに気づいて「助けられた人から助ける人へ」なってほしいとの思いからだ。

路上生活から保護されベトサダ荘に入居した後には、住民票を整え、年金や健康保険の手続きをすすめて、就職活動に備える。郵便物も確実に届き、徐々に自立に向けた生活を回復していく。運転免許証の失効日当日にベトサダに保護され、なんとか更新手続きに間に合い、のちに運転手の職につ

れている。住居・食事を無償で支援する、自立に向けた最初のステップの場だ。生活保護を受けずに自力で生活しながら就職活動をおこなう。少しずつ貯金をしてアパー

いた人もいた。ベトサダ荘への入荘者が自立していく割合は九割近くになっている。また、自立後のフォローアップも欠かせない。アパートでの一人暮らしは相談相手もなく孤独になりがちだが、困ったらいつでも相談にのるなど支援を続ける。自立する人がいる一方で、夜回りをしての路上生活者への声かけや移動相談車による活動でベトサダニュースやカレンダーを配り、脱路上生活をすすめており、保護される人が途切れることはない。こうした活動にかかる費用は、主に寄付と助成金でまかなっている。就職活動のための交通費を支給したり医療費を立て替えたりするなど行政の手が届かない支援をおこなうため、資金はいくらあっても足りない。ホームレスの支援活動を対象にした助成金制度は少ないため苦戦しているが、募金や物資の寄付を募るなどの努力を続けている。NPOとしての活動を始めて二年、徐々に組織の体制を整え、ホームページやブログで積極的な情報発信をすすめている。かつては眞鍋さんの孤軍奮闘だったが、今は組織が動くことで活動が展開されるようになってきた。ホームレス支援活動は他にも見られるようになった今も、眞鍋さんは「寄り添うこと、伴走することが大事」との信念のもと、多くのホームレスの自立を支え見守っている。

### ◆ NPO法人自立支援事業所ベトサダ

所在地 札幌市北区北23条西2丁目2-18

Di oビル4階

TEL 090-2815-9372

WEB <http://www.npo-bethesda.com/>